

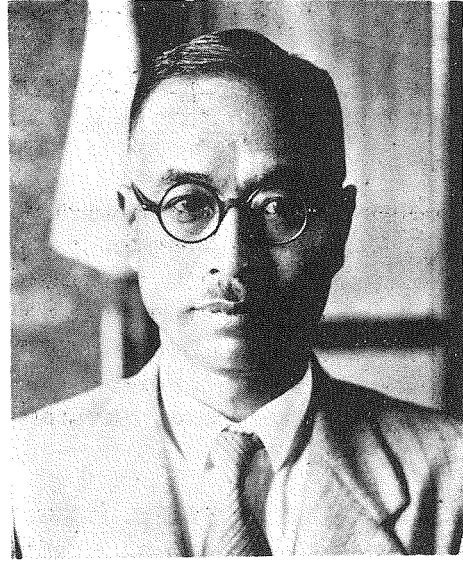
内務省東京土木出張所長 鈴木雅次博士

港灣工學の權威者たる鈴木雅次博士が、港灣工事の何ものもない東京土木出張所長に就任されたのは筋途が違つてゐる様である。東京土木は鈴木博士の古巣であらうと、學位論文が何であらうと、鈴木博士は港灣工學の名著書を以て最も良く知られてゐる人である。

日本の港灣工事は今や一大發展の機運にある際、鈴木博士が港灣技術の關係を離れると云ふ事は、假令それが僅かの歲月であるとしても惜むべきではあるまいか。然し役所としての高等人事は必ずしも其人の専門や技術に囚はれない様である。それが亦國家として良い事もあり、悪い事もあり、一概には何とも云へないのである。

鈴木博士は大正3年の九大土木科出で、直に内務省東京土木出張所に入り、中川吉造博士の下で利根川第二、横利根閘門工事等に従事し、大正9年歐米に出張を命ぜられ、各國の港灣工事を視察して歸朝後本省土木局第2技術課に轉じ、次いで關東大震災後の横濱港復舊の大工事に當り、所長安藝博士の下に多數の新進技術家と共に思ふ存分の研究的工事を進めて、急速工事の一大成果を収めた。次いで再び第2技術課に於て全國の主要港灣の調査計畫の任に當る事實に10年餘、昭和8年福田次吉氏の後を繼いで第2技術課長となり、12年第1技術課長に轉じ、此間に支那、南洋タイ國等の港灣計畫に參與して我國港灣技術の聲價を世界的に發揚したのである。而して先般の内務省大異動に依つて、谷口三郎氏の後を繼いで東京土木出張所長に榮轉したのである。

鈴木博士は長野縣の人で、唐澤法制局長官とは中學時代の同窓の親友である。長野縣は



教育家の多數と、文藝思想方面に多數の人材を出してゐる。鈴木博士が九大在學中の秀才で、辯論部の雄であつた事も、趣味の高尙なる事も其等郷黨の影響が大にある事と思はれる。鈴木博士が技術生活の餘技として有名なるは音楽と繪である。曾て歐米出張中に各國都市の民謡歌曲を蒐集し、歸朝後作曲専門家間に非常の評判となつた事がある。洋畫も在佛中はルーブル博物館に月の過半を觀賞した程の熱心ぶりであつた。

現在は讀書とゴルフが鈴木博士のスポーツである。讀書の範圍は中々に廣く、特に専門に關しては精新なものがある。

鈴木博士は私學の教壇にも立ち、得意の港灣工學に青年學生に良き講義を與へ、一方亦名文を以て「港灣工學」の大著を完成し、其他港灣協會等の公共團體の事業活動に多大の盡力をしてゐられる。

國際的な經綸に富む巨人大谷光瑞伯の如きも、忙中に鈴木博士を基隆埠頭に迎へて其専門的意見を聞くのである。

願くば海國日本の爲に、我港灣技術の爲に鈴木博士の健在を祈つて止まないものである。